

犬丸校下のまいぶんマニュアル

☆☆犬丸校下ってこんなところ！☆☆

地形／犬丸校下は梯川が流れる平野にあります。

ここには弥生時代以降、肥よくな水田地帯が広がり、人々が生活したむらや有力者の住まいのあとなどがたくさん見つかっています。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



地形の説明

年表に登場する遺跡／松梨遺跡（松梨町・犬丸町・蛭川町）

おもな時代は古墳時代～平安時代。（遺跡の全体では弥生時代～室町時代までのものが見つかっています）。

教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」～「貴族のくらし」。

ポイント①＝犬丸小学校はこの遺跡の中にあります。遺跡は小学校を中心

に半径200～300mの範囲に広がっています。

ポイント②＝平成3年（1991）に小学校プール建設工事の時に発掘調査されました。古墳時代の舟の

へさき^{へさき}を再利用した井戸枠や、奈良・平安時代に使われた食器^{すえき}（須恵器）やお酒を注ぐ

盃^{さかずき}（かわらけ）、中国産の白磁^{はくじ}などがたくさん見つかりました。

ポイント③＝最近では北陸新幹線工事に伴い発掘調査され、新たに鎌倉・室町時代のむらのあとも見つかりました。

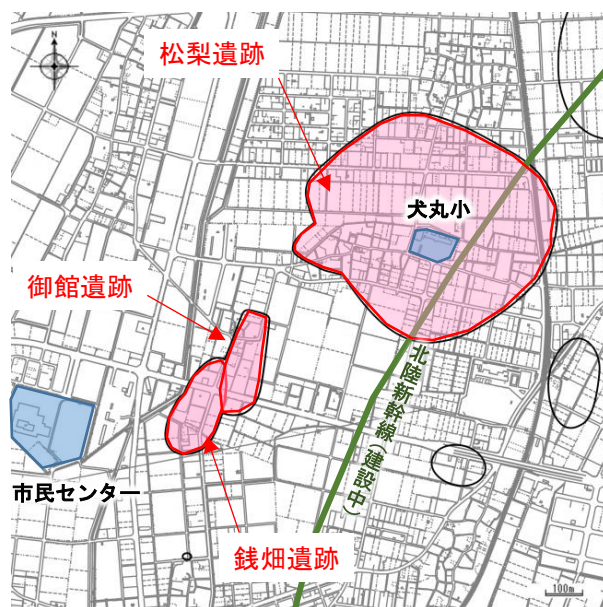
そのほか年表に登場する遺跡アレコレ

鎌倉時代、板津地区から能美市根上町辺りは有力武士団「板津氏^{いたづし}」の勢力範囲でした。これに関連して、犬丸校下には、「御館^{あたち}」や「銭畑^{ぜにはたけ}」という地名が残ります。周辺には「西堀」、「東堀」、「馬場」、「城門」といった小字名も伝わっているため、板津氏の館が「御館」にあった可能性があります。また館付近で江戸時代に「銭数百貫」が出たという言い伝えがあり、これが「銭畑」の由来と考えられます。

これらの話に確証はありませんが、実際に御館遺跡や銭畑遺跡の発掘調査では、鎌倉時代の溝や土器がたくさん見つかっています。



舟を再利用した井戸枠



遺跡の位置



御館遺跡出土のかわらけ



犬丸校下の遺跡